

○議長（古畑浩一君）

日程第2、一般質問を行います。

昨日に引き続き、通告順に発言を許可します。

東野恭行議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。〔12番 東野恭行君登壇〕

○12番（東野恭行君）

おはようございます。みらい創造クラブの東野恭行でございます。

発言通告書にのっとり、1回目の質問をさせていただきます。

1、久保田市政における今後の取組について。

令和7年第2回市議会臨時会の久保田市長の挨拶の中で、「市民と共に未来を開く」を基本理念として、市民一人一人の声に耳を傾けることを大切にし、市民の皆様と、共に考え、共に行動することで、持続可能で、活力あるまちづくりを進めてまいりたいとありました。

久保田いくお公式サイトでは、重点政策が明示されており、今後の市政運営に反映されていくものと考えことから、公式サイトを基に今後の展開について質問させていただきます。

- (1) 医療・福祉の重点政策、糸魚川市の医療体制を守る上で、久保田市長が市民に対し、協力を促したいことは何か伺います。
- (2) 教育の重点政策、少子化が進む中、「学校再編や部活動の地域展開を推進」するとありますが、展開イメージをお伺いいたします。
- (3) 経済活性化の重点政策、観光資源の整備やふるさと納税の活用により、特定資金源を確保するとありますが、展開イメージをお伺いいたします。
- (4) 「地域の特性を生かす」の重点政策、交流人口の増加を目指す展開イメージをお伺いいたします。
- (5) 災害対応と安全の重点政策、防災対策を強化し、災害時の相互支援体制を実現するとありますが、展開のイメージをお伺いいたします。
- (6) 駅北子育て支援複合施設の建設の見直しについて。市民の声にさらに耳を傾け、駅北にふさわしい充実した施設について再検討を行うとありますが、今後、市民合意をどのように図っていくのか伺います。
- (7) 新久保田市政において「縮充」の概念が糸魚川市の大切な目標となると考えますが、久保田市政だからこそ生かされる糸魚川の特色は何か伺います。

以上で1回目の質問を終わらせていただきます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

おはようございます。

東野議員のご質問にお答えいたします。

1 点目につきましては、日頃からの健康づくりや医療機関の適正受診を心がけていただき、市民の皆様と行政、医療関係者が共に支え合うことで、限られた医療資源の中でも、持続可能で質の高い地域医療体制を確保してまいりたいと考えております。

2 点目につきましては、地域コミュニティを重視した学校再編や校区を超えての活動により、子供たちの学びを支える環境づくりを進めてまいります。

3 点目につきましては、水産物や農産物などのブラッシュアップ、観光との連携など、地域資源を活用して経済循環と財源確保を図ってまいります。

4 点目につきましては、豊かな自然や歴史・文化、食など、各地域の特色や人のつながりを生かし、ブランディングと魅力発信を推進することにより、交流人口から関係人口へ発展させたいと考えております。

5 点目につきましては、他の地方公共団体と相互に連携、協力し、速やかな災害対応に努めてまいります。

6 点目につきましては、私自身、地域の代表者や各地域に入って、市民の皆様と懇談を通じて説明してまいります。議員の皆様からも幅広く市民の声を集約していただきたいと考えております。

7 点目につきましては、宿場町として発展してきた歴史的な背景から、様々な分野で培われてきたノウハウは、現在の基盤となり、特色であると考えております。こうした地域の特色を、未来ある子供たちに伝えていくことに加え、地域資源のブランディングや、魅力の発信に努めてまいります。

また、糸魚川、能生、青海それぞれの特色や、様々な人とのつながりを生かして、「住みたいまち」「住み続けたいまち」の実現に向けて取り組んでまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

それでは、2回目の質問に入らせていただきます。

（1）の市民に対し協力を促したいこと、医療の関係でございます。

令和7年2月7日に開催された市民厚生常任委員会、委員会協議会の資料から抜粋させていただきますが、糸魚川総合病院において、現状の医療機能を維持していくとなると約4.3億円の経常収支マイナスとなるとしており、対して、資料の中の令和9年の黒字化を目指したシミュレーションの概要では、令和7年、8年度は段階的に機能を縮小し、令和9年には大きな変更を行う。9年度には、救急車受入れを平日・日中のみに限定。さらに手術・分娩は中止。専攻医、外来医も削減。

外来診療科は大幅削減となりますとあり、この計画を実行すれば黒字化はするが、糸魚川市民にとって、到底許容できるものではない。救急、手術、外来機能は維持する必要があるが、その実行には、行政の補助が必要とされる。現状より 2.5 億円から 3 億円程度の補助が必要となるとありました。

糸魚川総合病院が提示した資料では、人口減少を上回るスピードで外来患者、入院患者が減少している傍ら、病床数の適正化を図られたり、令和 4 年度の冬からは、経営改善 3 %プランを実施するなど、経営改善に向けた努力をされていました。

これらを受け、3 月の当初予算と補正予算において、支援総額合計 7,000 万円が議決されました。糸魚川市にとっても重要な判断であり、大切な支出であったと考えます。これからも医療体制を守っていくために地域医療構想を踏まえ、協議が繰り返されと考えますが、救急、手術、外来機能の維持について、糸魚川市の考えをお聞かせいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

当市としましては、今の機能をできるだけ維持する。これが、まず前提だというふうに考えております。そこには、将来的にもう少し、今以上の財政支援が必要になってくるかもしれません。ですが、地域医療構想の進捗に合わせて、糸魚川総合病院の病院機能がどのようになっていくのかというところと、実際にここだけは残さなくてはいけない、譲れないという部分は残すというところの駆け引きの中で、最終的な市としての支援額というものが決まってくるのだというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12 番（東野恭行君）

できるだけ今ある機能を残していきたいというところが、考えの骨子かと思っておりますが、なかなか現実的にそうはできない状況も今後、出てこようかと思いますが、しっかりと検討を図っていただいて協議いただきたいと思っております。

糸魚川市の医療体制を守る上で、市民の皆様の協力は、不可欠であると考えます。生活習慣病の進行を予防するフレイル予防であったり、日頃から心がけてほしいこと、市民の皆様に日頃から心がけてほしいことを市役所から発信することは、大切であると考えております。今後も継続して、発信していただきたいと思っております。

私は、地域で商売をさせていただいているので、地域のお店を使ってくださいと地域内経済の循環を促すべく、地域内外に自身のお店を選んでもらうべく働きかけをしております。それは、微力ではありますが、糸魚川市の経済を守るためでもあり、自身の家族を守るためでもあります。糸魚川市が、市民の皆様に日頃から心がけてほしいこととして、糸魚川市内の病院を使ってくださいと

促すことが、糸魚川市の医療体制を守っていくことに私は直結していくと考えておりますが、久保田市長、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

糸魚川市内の総合病院、また、吉田病院、そして、それぞれのクリニック等ございます。それは、患者様市民の皆様が、自分の症状・病状に合わせて選んでいくというふうに考えております。ただその中で、やっぱりそれぞれの病院のサービスの部分に対して、その患者、市民の皆様が、それに応えられない場合には、別途の選択肢もあると思います。

では、別途の選択肢があるからといって、それでよしとするんじゃないくて、やっぱり別途の診療機関に対して、我々糸魚川市として市民の利活用について理解をしていただいて、丁寧な診療につなげていただけるように、また要望する。また、その連携をする。そしてまた、県外の医療機関、高度な医療機関、医療が必要な場合には、そこに早くつながられるように対応していくということを考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

もちろん今いただいた回答は承知の上で私ちょっと申し上げておまして、やはりそういった観点で、糸魚川に診療できる病院、診療科目があれば、糸魚川の診療を受けるべきだと思いますし、それも、ひいては地域医療を守るという意味で、こういった手前をつくってしまうと、そういう補助を支出する立場側から言わなければならないことは言っていかなければならない状況ができると思っております、これをなかなか言うというのは、私勇気のいることだと正直思っております、しかしながら、地域経済なりの循環を促すということは、その重要性について、ここ数年でしっかりと地域内でもそういう発信をされておりますので、今後は、地域医療を守るという観点でしっかりと糸魚川の病院を使ってくださいということも、私、訴えていく必要があると考えております。

久保田市長におかれましては、市民と共に未来を開くという基本理念から、市民の皆様、私たち議員と今後は対話を大切にしていきたい、このように考えております。願わくば、糸魚川総合病院は、これからも地域に愛され続ける病院運営を目指していただきたいですし、私たち市民は、糸魚川でご活躍いただいている大切な医療従事者を尊重し、大切な地域医療を守るための当事者として、私自身も意識していきたい。ちょっと感想みたいになっちゃいましたが、そのように思っております。それについて、久保田市長、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

大変貴重なご意見だと思っております。当然、経済の循環を含めた地域医療の選択というのは当然のことだと思いますけども、基本的にお金に代えられない自分の病気、生命に資する部分については、その適所の病院の選択というのもあります。糸魚川市の病院のほうから、そういう部分のつなぎをしていくことによって、サービスが継続してできるとか、また戻ってきたときに、市内の病院、クリニックをかかりつけ医として活用していただくとか、行ったっきりじゃなくても、またリターンをした段階でも市内の病院の在り方をきちっと丁寧に説明をして、また、かかりつけ医の活用を図っていきたいというふうに感じております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

それでは、2番目の再質問に入らせていただきます。

学校再編や部活動の地域展開の推進について質問します。

縮充の概念が強く反映される重点施策だと考えております。学校の在り方検討会が立ち上がり、今後は意見集約がされていくと考えますが、再編整備計画を策定していく中で、市としてのイメージや実行していく時期を、地域や関係各位に、まず市が進んで提言、表現していく必要があると考えますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

小川こども教育課長。〔こども教育課長 小川豊雄君登壇〕

○こども教育課長（小川豊雄君）

お答えさせていただきます。

ご指摘のように、この計画を進めていく中では、地域との対話については非常に重要なところだというふうに思っております。

ただ、現状としましては、これからそういったような策定計画、策定といいますか内容についての検討を始めるところですので、検討を進めていく中で、必要に応じて地域にアナウンスといいますか、情報を発信していくような形になっていくかと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

ちょっと一番お伺いしたいことというのは、実行していく時期、目安というか、そういったものをしっかり表現、提示できるかというところをちょっと質問させていただいておるんで、ご回答お

願います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

小川こども教育課長。〔こども教育課長 小川豊雄君登壇〕

○こども教育課長（小川豊雄君）

お答えさせていただきます。

時期については、現時点でいつとかということは申し上げられないのかなというふうに思っています。やはり話を進めていく中で、どういったような必要性があるのかですとか、そういったようなことを総合的に考えながら進めていくことになっているかと思います。

ただ、地域によっては、急いでやらなきゃいけないというようなところも内容的にあるかと思います。例えばもう学校の施設が傷んでいるですとかそういったようなところ、これまでのほかの議員さんのお答えの中でもさせていただきましたが、そういったところも勘案して、必要に応じてできるだけ早くというような形で考えておるところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

子育ても終わりに近い我々世代ですと、高校の再編が関心事として上げられますが、学校、保育園の適正配置については、地域の思いや歴史、再編による影響を加味した上で、様々な判断が強いられ、断腸の思いで決断していかなければならないケースもあろうかと思います。

しかしながら、何のための適正配置であるか。その時期を明確にして進めるということを念頭に置いて進めない限り、決まるものも決まっていけないのではというふうに考えております。少子化と子供の教育環境の充実の機会は、待ったなしで通り過ぎていくと考えてます。再編における適正配置を実施する時期、いつまでに進めるという提言の実施、そして、糸魚川市が考える学校再編における適正配置の最たる目的を、お考えをお聞かせいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

小川こども教育課長。〔こども教育課長 小川豊雄君登壇〕

○こども教育課長（小川豊雄君）

お答えさせていただきます。

学校再編における最たる目的というところなんですけれども、やはり子供の教育を充実させるということが一番の目的です。糸魚川市では、0歳から18歳までの子ども一貫教育ということを掲げております。そういった中で、その子ども一貫教育が、どうしてもっとより充実するのか、そういうことを念頭に置きながら学校の再編を考えていくということになります。そのためには、地域の協力も非常に必要不可欠になってきますし、そういった地域の力を結集した形で学校再編ができるというのではないかなというふうに考えているところです。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

適正配置のイメージ、言わば縮充のイメージをしっかりとお伝えすることが、一番大変な仕事となると考えます。人口減少を踏まえ、スピード感を持って教育環境の整備に努めていただきたいと考えております。それについて教育長、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

靄本教育長。〔教育長 靄本修一君登壇〕

○教育長（靄本修一君）

お答えいたします。

今ほど小川こども教育課長が話しましたように、私たちは今まで0歳から18歳までの子ども一貫教育について、約15年間ほど積み上げてまいりました。今現在、これからの糸魚川市の学校の在り方、そしてまた、学校を核にした地域づくり、どういうふうなコミュニティにしていくのか、いろんな総合的な分野のものが絡んでいきます。そうやってきたときに、より一層、子供たちの夢や目標に向かってそれが実現できる、その子供の育ちや学びが連続して、しっかりとした環境の中で育てていけるように、そして18歳を迎えたときに自立というふうな部分のところが大きな目標でございます。バランスの取れた、そしてまた自立に向かっていけるような子供たちの育ちを精いっぱい進めていきたいというふうに考えておりますけれども、やはり幾重にもビジョンづくりについて、今熟議を重ねておりますけれども、今ほど議員さんおっしゃったように、多面的、多角的、総合的な視点から、その辺の部分のビジョンをつくらないというと、やはりいろんなそごが出てきます。そんな意味合いで、ビジョンを早めにつくっていく中でもって、おおよそのビジョンができたときに、議員の皆さん方にも提示したり、そしてまた、地域の方々にも説明に回ったりというふうな部分のところのアクションがですね、具体的に始まっていくんだらうと思います。

そのアクションの中でも様々なご意見がたくさん、それぞれの地域事情があったり、統合に向けての条件整備というふうな部分があったり、子供たちの人数的な部分の環境づくりの差異等が出てくるというふうに思います。そんなふうな部分の様々な意見をまた総合する中でもって、そのビジョンがどのような形でもって、それまた積み上げられていくのかという部分のところの、一步ずつの積み重ねみたいなものが、これから求められる。そんなふうな大事な時期に来ているというふうに私は捉えています。

事務局としても課題が山積なんですけれども、精いっぱい皆さん方の英知を集めて、また、議員さん方の皆さん方からの力も借りながら、一緒になってこれからの糸魚川の地域づくり、学校を核にした地域づくりのビジョンをみんなと一緒に進めていければありがたいなというふうに思っています。よろしく願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○ 1 2 番（東野恭行君）

そういった意味では、その時期が見えてくると、民間、市民の皆さんがやることも見えてくるのかなという思いで発言させていただいております。

続いて、再質問に入りますが、学びの多様化学校について、再質問させていただきます。

学びの多様化学校について、糸魚川市も検討されているとのことですが、実際の話、現状の小中学校ですら教師の数が足りているのか心配ではありますが、生徒指導支援員の数についても増員する必要があると思いますし、多様化に対応するとなると、少子化に反比例して、さらなる教師の増員、生徒指導支援員の増員を図らなければならないと考えますが、どのように増員していったら、対応していくイメージなのか、お伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

小川こども教育課長。〔こども教育課長 小川豊雄君登壇〕

○こども教育課長（小川豊雄君）

お答えさせていただきます。

子供の支援をする職員についてですが、現在、増員のほうをいろいろと考えているところなんですけれども、なかなか思うように進まないところもあるんですけれども、今後も増員については、お願いしていくような形で進めていきたいというふうに思っております。

学校の先生自体は、今のところ糸魚川市はある程度充足はしているんですけれども、全県的には足りない状況もございます。そういった中で、糸魚川市のほうは、比較的まだ、何ていうんでしょう、しっかり充足されているような状況になっているかと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○ 1 2 番（東野恭行君）

今後、多様化学校を検討していく中で、連携を図っていただきたいのが、糸魚川市の駅前で通信制高校と通信制大学の運営をされている事業者であります。生徒も通信制高校が36名、卒業生が既にいらっしゃる3名、大学生が2名いらっしゃるそうですが、糸魚川に住む子供たち一人一人が、先ほど教育長も申し上げましたとおり、一人一人が自立するための大切な期間であると、このように考えております。

駅前設置に当たり、糸魚川市からも情報提供についてお力添えをいただきましたが、今後のそういった機関との連携の在り方についてお考えをお聞かせいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

小川こども教育課長。〔こども教育課長 小川豊雄君登壇〕

○こども教育課長（小川豊雄君）

お答えさせていただきます。

現状としましても、市内のそういったような機関ですとかそういうところにつきましては、現在、



ひすいルームとかに通っている生徒さんとかをそういったところとつないでいったりですとか、そういった形で連携をさせていただいております。今後も、例えば学びの多様化学校を造ったとしても、学びの多様化学校は、基本的に義務教育段階の学校でございますので、その次にどういうところにつないでいくかということを考えますと、そういった事業者さんたちとの連携というのは必要不可欠だというふうに考えておりますので、今後もそういったところとしっかりと連携をしながら子供の教育を進めていきたいというふうに考えているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

    靄本教育長。    〔教育長  靄本修一君登壇〕

○教育長（靄本修一君）

    ちょっと補足をさせてください。

    今ほど小川こども教育課長が説明しましたように、多様化学校については、一応中学生を対象にということで義務教育段階でございます。そこで学ぶ子供たちが、やっぱり学びたいというふうな場合については、やっぱり市内でということ考えた場合に、やっぱり学びの連続性というふうな部分のところをうんと大事にした場合については、今ほど議員さん提供のあったような情報の機関、学ぶ機関が非常に大事になっていきます。そんな意味合いで、子供たちの学びが連続していくような環境づくり、ここら辺りも市内でできれば一番ベストでございますので、そういった意味合いで、今現在ひすいルームの話がちょっと出ましたけれども、その辺の部分の関係諸機関のですね、やっぱり情報交換、そしてまた、一緒に手をつないで市内の子供たちを育てようというふうな部分の機運をですね、やっぱり連携を通して、しかもそれを行動に展開することによって、やっぱり子供たちも安心して市内で学びが続けられるというふうな環境が出来上がってくるというふうに思いますので、力を合わせて進めていくことが大事だろうというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

    東野議員。

○12番（東野恭行君）

    この機関におきましては、来年、卒業生が十数名いらっしゃるそうなんですけど、半分もう既に糸魚川市内での就職が決まってるそうで、そういった意味では、本当に自立していくというところの目標・目的を達成されている、そういった機関でございますので、これからも連携を深めていただきたい、このように思います。

    続きまして、（3）番の特定資金源を確保する経済活性化重点施策の部分、再質問させていただきます。

    観光資源の整備について、糸魚川市には、おいしい食べ物としてアンコウや南蛮エビ、おいしい白身魚のお刺身、ゲンギョやお米、B級グルメとしてブラック焼きそばなど、国石、県石、市の石に認定されたヒスイ、糸魚川真柏、そして相撲に関する取組等、糸魚川には観光資源として多くの資源がありますが、整備という表現から、糸魚川市として、それぞれの強みを強化していくという

ふうに捉えております。経済を活性化していこうという民間側の目標と特定資金源を確保しようという市役所の目標から、今後は官民一体となって取り組んでいくのだろうと考えますが、大事なことは、その特定資金源の活用の目的であると考えております。その特定資金源は、どのように活用されていくのか、イメージをお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山崎商工観光課長。〔商工観光課長 山崎和俊君登壇〕

○商工観光課長（山崎和俊君）

おはようございます。

特定資金源ということで、市長の公約の中では、ふるさと納税という記載もございました。今、議員ご指摘のように、糸魚川市の観光資源といいますか資源として、一次産業からいろいろなものがございます。かなりオンリーワンになる強いコンテンツもございますので、そういったものの、これまでとの売り方を変更していくような必要があるかと思っております。

観光資源につきましては、その対象について、箱というか物の部分と事と人と、要はハードとソフトに分けられると思いますので、それぞれの中で集中と選択して、お金をかけるべきところはかけていくということになると思います。

できればオンリーワンとしましては、糸魚川ならではの体験型のツアー等を高く売り込むのが面白いというふうに考えておまして、そのための受入れ体制の再構築、例えばガイドの養成ですとか二次交通ですとか、受入れ施設の整備等が必要になってくるというふうに思っております。あわせて、企業版ふるさと納税についても、これまでの例から、人と人とのつながりが大変重要になるのではないかとこのように考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

井川副市長。〔副市長 井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

おはようございます。

東野議員の質問は、特定資金源の活用というふうに私はお聞きしましたので、その活用につきましては、市の一般財源として、自由に使える財源として活用させていただいているというものでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

先日のどなたかの質問で、市長が、使途を3割方決められるという、そんなような答弁があったと思うんですけども、その使途が決まってくると寄附の額も変わってくるのかなというふうに思うんですけども、そういった意味で、その特定資金源というのは何か狙いがあるのかなというふうに

私感じておったんですけども、その点、市長、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

特定資金源っていうとなると、まず最初に、その目的ありきで資金調達をする、納税、企業からの納税だとか、また一般の方から納税、当初こういうことをしたいという部分が、まず、起こさなきゃいけない。それについての参考になるところは、岐阜県の飛騨市のふるさと納税における特定資金源の活用についてありますので、それについては、そういう情報をきちっと担当課のほうにお伝えしながら、参考にするようにというふうにして考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

現状そういう段階であるということで、理解させていただきました。

ふるさと納税に関しましては、年々、寄附額も増加しており、その返礼品は、大半がお米とのことでした。今後は、様々な返礼品のラインナップを増やしていただいて、寄附額を増やしていっていけば、さらに地域の物品が流通し、企業にとっても売上げ増加になり、経済活性にもつながると思いますが、糸魚川市における米の生産量は限られておりまして、寄附収入は、頭打ちになるんだろうなというふうに考えられます。久保田市長が考える実現したい返礼品メニューなど今構想がありましたら、お聞かせいただければと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

先ほど山崎課長のほうから、1つ提案があったとおり、体験型の、そういう部分の返礼品、ものではなくて体験型にしたらどうだと。一例を挙げますと、いわゆる相撲道場の見学で、そこにやはり糸魚川の食を絡めた見学に対するツアーの返礼品とか、そういう体験型という部分を一つ考えている。そういう部分を、また検討していただいているという段階です。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

県外の市外の寄附される方が、わくわくするようなそういったメニューを考えていただければと

いうふうに思います。

ふるさと納税の寄附額については、年々上昇していることから、市外にお住まいの方の関心が高まっている。言わば、関係人口が増加しているとも考えられます。企画定住課に関しましては、煩雑な事務作業の改善策は、今もう商工観光課に移られてますかね、企画定住、失礼いたしました。煩雑な事務作業も改善策も踏まえて、寄附額増加に向けた取組を強化していただきたい、このように思います。

それでは4番目、交流人口の増加を目指す展開イメージについて、再質問させていただきます。

日々、旅行者のレンタカー対応などをされている糸魚川駅前のヒスイ王国館の方より、これまでにテレビ、報道、万博等でヒスイが有名になった糸魚川ですが、休日に限らずヒスイ拾いをされる観光客や問合せが増えた。その観光客が満足して帰っていただくために、例えば曜日限定で、ヒスイ鑑定士を観光協会や駅周辺に常駐してもらうなど、先ほどの受入れ体制の話になるんですけども、そういった受入れ体制が必要ではないか、そういった対応ができることによって、旅行者にとってもよい思い出づくりになるのではというアドバイスを頂戴しております。

現在、糸魚川にそういった観光客に、しっかりとヒスイを鑑定できるフォッサマグナミュージアムの学芸員さんなどが出張して対応したり、そういった対応を現在しておられるか、ちょっと確認させていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

嵐口文化振興課長。〔文化振興課長 嵐口 守君登壇〕

○文化振興課長（嵐口 守君）

お答えいたします。

フォッサマグナミュージアムの学芸員につきましては、現在フォッサマグナミュージアムでやらせていただいておりますので出張等はございませんが、ヒスイの鑑定を民間の方からやっていただけるように、講習会等を含めて、まだ準備段階ではございますが、ご本人等を含めまして準備ができた段階で、そういった展開をしたいというような構想は持っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

今ご答弁いただいたことで、そういった構想というのが初めて知ったわけなんですけども。やはりそこでも、先ほどの時期の話なんですけども、鋭意進んでおるということは分かるんですが、いつ頃できるのかなという、そういったお話もぜひ、今後、聞かせていただければというふうに思います。

交流人口の増加を目指すに当たり、能生、青海、糸魚川と一本化した観光協会と対話するなど、市民と共に未来を開くために、今後、関係団体と交流する機会は、市長自身、考えられていると思いますが、今後のご予定等をお聞かせいただければというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

昨日も観光協会の会長さんとの懇談もありまして、いろんな意味で今後、意見交換をしていこうという部分では落ち着いておりますし、また、観光協会といろんな団体の方と、またいろんな話をしていくという部分も昨日お話をお聞きしました。そういう部分においていえば、これからは密な関係で、いろんな会合、そして懇談の席を設けていただければ、ぜひ私どもも伺いたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

ぜひ、そういった機会を創出していければというふうに思っております。

観光協会の取組に関しては、特にイベントなどは市役所職員の皆さんのお力添えなくして、もう現在は成り立たないと思っております。マンパワーなくして交流人口の増加は難しいと考えておりますし、もちろん、新しい取組なんかにも期待しておるんですけども、既存のそういった団体さん等の取組やイベントなどを今以上に盛り上げることを前提にですね、対話を繰り返していただいて、交流人口の拡大に努めていただければというふうに思います。

続いて、また、交流人口、関係人口についての質問になります。

先日、加藤議員のほうからもお話がございました件でございますが、旧北越銀行跡地に、この夏よりCataloという名称の事業所が、運営が始まります。株式会社MOVEDの代表であります渋谷さん、糸魚川市とも由縁がある事業所さんでございますが、こちらが運営する会社が、今後、口の字商店街においてご活躍することが期待されております。3階に糸魚川市と関連のありますthread3が設置されている背景とCataloの運営について、期待される効果を分る範囲で教えていただければというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山崎商工観光課長。〔商工観光課長 山崎和俊君登壇〕

○商工観光課長（山崎和俊君）

ご指摘のCataloにつきましては、昨日も旧北越銀行糸魚川支店を再利用されたビルだということでお話をさせていただきました。ビルの名称については、キャタリストビルディングという名称で、キャタリストとは、触媒とか反応させるという意味だそうです。その1階の部分をCataloというネーミングで呼んで、今、議員ご説明のとおり、株式会社MOVEDが運営を受託しているというふうにお聞きしております。

施設のインスタグラムによりますと、地域と地域、人と人が出会い、語り、動き出す、コワーキング・アンド・コミュニティスペース、2025年8月オープンということで、Cataloを起点に仕事が、挑戦が、未来が動き始めるという記載がございます。

こちらの施設に期待する部分については、まさしくこういった部分かなというふうに思っておりますし、施設の立地がですね、すこぶるよい場所にあるというふうに思っております、そういった意味でも3階の一部分を先に市としても活用させていただいて、本町通り内での移転であったんですけど、多様な働き方を進める t h r e a d 3 を移転させていただいております。隣にありますキターレとの相乗効果も期待できますし、ここから、商店街や近隣店舗に流れて、消費や新たな、また、人がにぎわうことによって新たな進出が生まれる等を期待しております。

市外の方については、駅から徒歩三、四分の場所になりますので、新しい目的地がまた誕生するということで、地域の経済活性化に資するものというふうに期待しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

私自身も商店街の人間でございますので、ご活躍にご期待申し上げます。

（5）番、災害時の総合支援体制を実現するということで、市としての総合支援についてご回答いただいとるんですけども、どちらかというと、公助に値するのかなというふうに答弁を聞かせていただきました。

それでは、再質問させていただきます。

令和6年1月1日に発災した能登地震以降、私の住んでいる地域では、一時避難場所となる場所の選定や体育館の鍵の管理者などを決めました。

しかし、自助、共助、公助の観点で考えると、まずは自身の身を守ることが最優先で、共助の精神でなければ、総合支援体制は成り立たないのかなというふうに感じております。災害のケースによっては総合支援が難しい状況があると考えますが、例えば独居高齢者に対する総合支援の考え方を、糸魚川市の考え方をお聞かせいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

竹田消防長。〔消防長 竹田健一君登壇〕

○消防長（竹田健一君）

お答えいたします。

今、東野議員の言われたとおり、自助、共助、公助、3助の連携というのが非常に大切になってきますが、事が大きくなればなるほど公助が当てにならないというようなところで、特に高齢者等、独居老人含めまして、やっぱり地域で、要はそういう方を見守っていただくといえますか、また、事前にそういう方がおられれば個別避難計画などをつくって、事前に災害が起こったときには誰が助けるとか、そういった取組も必要だというふうに考えております。

ただ、それがまだ今はできてないといったような状況ですので、この能登半島地震を契機といたしまして、まだいろいろやるがありまして、そこまで手をつけられない状況ではありますが、また、訓練等を通じて、そういったところもやっていければというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

まず、市民がどう動いて、どう共助の精神で動いていくというところが、やはり分からない。助けたい気持ちはあるんだけど、どう動いていいか分からないという状況がございますので、そういった意味では、消防のほうからご支援いただいたり、アドバイスを頂戴できればなというふうに思っております。今後もまた、ご支援のほう、お願いしたいと思います。

総合支援体制を整えるためには、誰が何をするという部分を明確にする必要があり、犠牲も伴うと考えます。自身とその家族を守ることが最優先とされる中で、総合支援体制を実現し、見える化されていくことに期待しております。ぜひ協力させていただきたいと考えております。

続きまして、最後の再質問になりますが、駅北子育て支援複合施設の建設見直しについてでございます。

先日の全員協議会において、国の補助金事業の継続を前提に、タウンミーティング等で利活用案を説明するとありましたが、令和7年12月までに計画変更の申請をするという時間的制約を考えますと、行政側で決めたこと、決まったことを説明するにとどまってしまうのか、この辺伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

議員ご指摘のとおりですね、12月までに国のほうに補助金のほうの計画変更のほうを申請したいと考えております。一応の案といたしまして、市のほうで考える案というものをお示しをする中で、市民の皆様からまたご意見等をいただきながら、修正等も含めてですね、検討していくことになるのではないかなというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

今の答弁聞きますと、決まったこと、こういった方向でいきたいんですよというところをお示しして、その意見を聞くという、そういう形でよろしいですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

そのような形になろうかと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

時間的制約と申し上げましたのは、やはりその中で、市民の皆さんの意見というところを聞いていけるのかなという、時間的にそういう猶予があるのかなというふうに感じたんですけど、その辺はどういうふうクリアしていくのか、お伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

市長答弁にもありましたように、そういった市民の皆様と直接懇談していく場というものもそうでございますけれども、議員の皆さんからのご意見といったところも踏まえる中で、内容を固めていくことになろうかと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

時間は本当差し迫るんですが、議員としてもそのような声を、いろんな声を拾っていきたいと思います。まだ、推進される方も、中にはいらっしゃるのかなというふうに感じておりますし、そういったところも含めて、意見のほうを伺ってまいりたい、そして、市長にお話しさせていただければというふうに思っております。

旧東北電力ビルと宮田ビルの解体について、伺いたいと思います。

いま一度、総額2億5,000万円の算出根拠をぜひお聞かせいただきたいと思います。予定としては、こちらの2億5,000万の予算、一般競争入札によって実行していくのか。5回にわたる入札不調に対する対応策を公表できないというのであれば、納得のいく説明を議会にいただきたい、このように思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

今回、補正予算ということでお願いしております債務負担行為の追加を合わせまして、2棟合わせて2億5,000万円ということでの今予算をご提示させていただいているところでございます。この内訳といったところにつきましては、昨年度の5回の入札の不調といったところを踏まえ、庁



内で検討をしていく中で、また、新年度に入りまして、年度が替わりますと、各単価の変更等もございます。そういったところも踏まえる中で、2棟合わせてという部分での総額ということで2億5,000万円ということで算出させていただいたというものでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

この解体については、今後も総務文教常任委員会で、また協議・審議されていくと思いますので、またしっかり内容について十分な説明ができるようにご準備いただければというふうに思っております。

現計画の契約事業者との解約に向けた協議について、伺いたいと思います。

今後、契約解除における賠償責任は発生してくるのか。基本協定の締結が間違いがなければ、令和6年12月6日に実施されておりますが、企業側の企画提案の作成費や様々なコストに対する補填については、糸魚川市が道義的に責任を果たしていく必要があると考えますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

今既に、このDBOの事業の計画で、協定、契約等を結んでおりますものは、今ほど議員おっしゃられた基本協定の締結といったところと設計業務の委託契約の締結、この2本になります。

それぞれの契約解除につきましては、既に相手方に今現在、市の意向を伝えまして、契約解除に向けた協議をこれから進めていくこととなっております。そういった違約金とかといった部分につきましては、それぞれの協定書、また、契約書に基づく契約解除の中です、取り決めさせていただくことになろうかと思っておりますので、今現時点で、この場で詳しいことは申し上げられません。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

少し大前提といいますか、大事なところだと思うんですけども、こういった状況になった民意を反映して中止の方向になったというところでは、納得しなければならないところだと思うんですが、そういったところで、その事業所に対して、要求水準書を私たちが議会で認めて、そういったものやってくださいというふうに提出しました。それで、いろいろ計画を練りました。それが民意で中止になりました。

しかしながら、各事業所のほうでは、そういった準備を進めていた。それ、民意で中止になるというのは分かるんですけども、そこでしっかりと市のほうから謝罪というのが必要かと思うんですけども、謝罪になる、お茶菓子持ってって謝れということではなくて、こういった事情でということで中止になったという、しっかりとした謝罪と説明が必要かと思うんですけど、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

先ほど室橋課長のほうもお話ししましたが、最初に、そのグループとのお話をさせていただいた段階で、私は、その際にきちっとその部分のざんきに堪えないという言葉を使って、謝罪はいたしました。その中の発言の中で、私自身、ご理解をしていただきたい。当然、道義的なということも含めてご理解をしていただきたい部分については、冒頭申し上げて、公共事業などの大きなプロジェクトは、地域が受け入れる形にしてもらわないと、必ずあつれきが生じる。そのあつれきが、事業者に向くとか、運営者に向くとかいうことを避けたいという部分の声をお伝えした中で、今回、中止に至ったという部分は、謝罪とともに説明申し上げたと、そういう段階でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

今後、そちらの事業所と良好な関係を継続していくという意味では、謝罪は大前提だと私も思っております。そういった意味では、業者とのあつれきがないような、また運営と進め方をしているっていただきたい、このように思います。

駅北の日常のにぎわい創出を考えますと、時間をかけて協議してきただけに、子育て支援複合施設建設の現計画中止は大変残念であります。選挙を経て、民意を酌み取った対応であるということとは理解していきたい、このように思っております。

先日の阿部議員の答弁では、債務負担行為の予算が議決しているので、予算内であれば目的に沿った変更は可能とのことであり、議会審査の必要がないとのことですが、あくまで債務負担行為の審議では、子育て支援複合施設の建設を踏まえた議決であったと考えます。今後、計画地に設置される施設、建物に限らずですが、こちらに関して中止になった計画とは異なる新しい設計業務委託の予算審査が今後伴ってくると考えますが、その審査が、仮に否決した場合、国の補助金、補助事業として活用した有利な財源は返還しなければならないのか、そういった解釈でよろしいのかを伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

これまでご説明しておりますように、現計画での建物の建設は中止するという中で、新たな利活用案をこれから検討していくところでございます。その利活用案につきまして、議会のほうとの意見の取りまとめがうまくいかない場合で、もし建物がそこに全く建たないとか、整備が全くなされないというようなことになる場合には、やはりその部分についての国の補助金というのは、今の既存ビルの解体も含めて認められないような形になるのではないかなということは想定されるところであります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

私、伺いたいのは、新たに設計業務委託の予算審査が伴ってくると思うんですが、それが否決された場合、どうなるかということをお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

市のほうとしましては、今、国のほうに提出しております補助の内容、子育ての満足度の向上、そういったものに資するものということで計画をしていく中においては、そういった国の補助金等が確保できるものと思っております。

また、議会のほうで、そういった計画が否決されるということになれば、そういった議会の意向も踏まえる中で、また修正案等も考えていくことになるのではないかなというふうには思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

今の答弁で納得しました。

全員協議会の資料の中で、子育て支援センターの移設を踏まえた屋内遊び場の整備を踏まえ、空き家・空き店舗の活用を模索するとありましたが、駅周辺の空き家・空き店舗を活用したときに改修にかかる費用等は、先ほどから申し上げております子育てに資する事業として、国の補助事業である有利な財源を活用できるのか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

今ほど議員ご質問の件につきましては、計画地での建設ということではなく、既存施設を活用した屋内遊戯場の設置ということであろうと思っておりますけれども、そちらにつきましては、また今後、新たな財源といったところを確保するように探しながら、修繕費等もかかるとは想定しておりますので、そういったところ、内容詰めながらですね、また財源確保にも努めて、計画を練ってまいりたいと考えているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

こういった提案が出てくるということは、そういった財源の見込みがあるのかなというふうにちょっと捉えたもので質問させていただきました。

駅北復興まちづくり計画策定においては、市民の皆様の声を聞き、十分な対話がされ、策定されたものと考えます。今後は、駅北子育て支援複合施設の計画の中止の件はもちろん、ひいては、久保田市政のバックキャスティングを踏まえた、久保田市政による総合計画のイメージ、駅北、駅南も含めて、こちらについて、秋までに実施予定のタウンミーティングで同時に説明していく必要があると考えますが、久保田市長、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

まず、昨日申し述べましたように、これからの整備については4点ございます。

その4点の中の 하나가、参加型のまちづくりへの転換という柱がございます。それについて、市民の皆さんへ説明する。その中身についてこうしたいという部分の説明の中で、十分な理解を得られるように、その市民参加型ということで説明を申し上げたいと思います。

さらにバックキャスティングということでもありますけども、私は一番大事なのは、人づくりだと思います。10年後、そして、その10年後から20年後、30年後と向かっていく、人というのはそれだけの長い年月で成長していくわけでございます。そういう中で、可能性のある子供たちを生かして、それを育む。それが市民協働によるものでなければ育むことはできないと思っております。まさに今、高い意識を持つ方々の存在がございます、糸魚川の市民、事業者の中には。それが、最終的には人づくりにつながっていくということになっていくことによって、可能になっていくと。そのバックキャスティングで見られた人づくり、まちづくりというのが可能になっていくと。よく例で出されます、一人の千歩より千人の一步、その皆さんが一步踏み出してもらえるような説明、そして、お願いをしてまいりたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

ありがとうございます。

それでは、（7）番の再質問でございますが、久保田市政だからこそ、生かされる糸魚川の特徴は何か、改めて久保田市長より伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

私も67年生きて、その中の約半分は教育行政に携わってまいりました。やっぱり一番の糸魚川の大切にしなければならんものは人なんですね。子供をきちんと育てられる、そういう観点において、いろんな対応、施策、そして事業化、そして皆さんへの協力をお願いしていくということ、それが、一つの活力という部分に関して言えば、人づくり、その中の大事な教育というものが一番最初に考えなければならないというふうに感じております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

以上で、私の一般質問を終わらせていただきます。

○議長（古畑浩一君）

以上で、東野議員の質問が終わりました。

それでは、11時20分まで暫時休憩といたします。

〈午前11時06分 休憩〉

〈午前11時20分 開議〉

○議長（古畑浩一君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、松田徳彦議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松田議員。〔2番 松田徳彦君登壇〕